

北海道 IBD

2013 年度運動方針

北海道 IBD が永く築きあげてきた「会員同士の出会いと語らいの場」を大切に、生の声の『FACE TO FACE』の語らいの場をもっとふやして行きます。

1.会員同士や家族の交流を深めましょう。

患者同士や家族同士など同じ境遇だと分かり合えることがたくさんあります。目と目、言葉と言葉をかかわす交流こそ患者会の意義です。会員相互の交流を深め、経験や体験を共有財産にしましょう。新しい IBD 会館を交流の場としましょう。

2.病気に対する正しい知識を学び、それを生かして実践しよう。

医療講演会に参加し、進歩している医療のことや急激に変化していく医療制度・社会保障制度を学び、IBD で活用できる保障制度も良く研究し知識を蓄えましょう。

3.みんなの要望を明確に、具体化して各方面への要望を強めましょう。

国や自治体・医療関連業者への要望を明確にし、また、札幌市をはじめ各地の保健所と共同で患者交流会を目指しましょう。国の難病政策見直しに合わせ IBD 患者の身体障がい者・年金適用拡大に声をあげましょう。また、発病初期の患者さんへ支援強化しましょう。このほかいろいろな可能性を求めて活動に参加しましょう。

4.全国の仲間、北海道難病連や世界の仲間と連携を強めましょう。

バザーやレク活動など北海道難病連の行事に積極的に参加し、他の疾病団体と連携しながら今後の新しい活動や視野を広げましょう。全国会の IBD ネットワークとともに進み、全国規模で心をつなげて IBD 患者の要望を実現していこう。

5.創意的な活動で会員の要望に答えられる対応をしていきましょう。

患者会として会員さんが求めている要望に答えて「サテライト集会」「女性の集い」「料理教室」「交流会」など語らいの場・行事活動に重点を置こう。

6.広い北海道、狭い日本、どこまでも楽しく北海道 IBD の仲間と会いましょう。

5つの地方支部の運動を強化し、支部のない地域での患者交流の機会を増やすため、サテライト集会を定着させ支部化を目指しましょう。

7.会員の皆さんが機関誌の作り手となるよう投稿を活発にし、会員同士の心を結びましょう。

元気生活セットハガキを活用して、近況やミニニュースを発信しましょう。寄せられたリクエストから掲載テーマを発掘しましょう。